

(公社)沖縄県シルバー人材センター連合
令和4年度事業報告

我が国は、急速な少子高齢化の進展により、高齢者は増加傾向にあるものの、現役世代等の減少による人口減少時代を迎えており、企業等においては人手不足・労働力不足が大きな課題となっている。

このような状況において、今後も経済活力、社会活力を維持していくには、元気で意欲にあふれ、豊かな経験と知識を持つ高齢者の活躍が重要として、高齢者や地域社会から寄せられる期待に応えるべく、高齢者の多様なニーズに対応するワンストップサービスセンターの実現を目指して取り組むことが重要である。

当連合においては、令和3年3月に策定した「第四次中期事業計画（令和3年度～令和6年度）」に基づき、その目標とする会員拡大や就業拡大及び安全就業に関して拠点センターと連携して取組を実施した。

令和4年度も沖縄労働局から「高齢者活躍人材確保育成事業」を受託し、中小企業の人手不足解消や現役世代の支援を行う為、雇用就業を希望する高齢者の入会促進や企業等のセンター活用を推進するため、広報活動を展開するとともに、セミナーの開催や技能講習、就業体験に取り組んだ。

令和4年度は、コロナ禍が収まる気配の中で、コロナ禍前の会員数や派遣事業の就業延人数の回復に努めた。また会議、研修等も集合開催を行うようにし、ICT（情報通信技術）を活用したWEB会議は必要時にとどめるようにした。

その結果、令和4年度の事業実績は、各拠点センターとの連携・協力により、会員数が昨年度の5,587名から5,712名と125名増加し、請負契約金は対前年度比、約8,800万円増となった。派遣事業に関してはコロナ禍の影響で前年実績がなかったセンターも事業を回復し、就業延人数は前年度比137%増の12,126名となった。実績額では前年度比138%増の56,119,851円となった。会員拡大については女性会員の増を目指し10月にシルボンヌ沖縄経験交流大会を開催した。

令和5年度も第四次中期事業計画の目標達成と安全就業の徹底を図るとともにデジタル化促進に向けて取り組むことが重要と考える。

1 基本方針

- ① 第四次中期事業計画の推進と令和4年度数値目標の達成に努める。

第四次中期事業計画の2年度にあたり、拠点センターと連携・協力して高齢者の入会促進、就業機会の拡大等の数値目標の達成とワンストップサービスセンターの実現に取り組んだが、コロナ禍の影響もあり、数値目標について全5項目とも達成することができなかった。

- ② 安全・適正就業を推進し、安心・安全なシルバー人材センターの実現に努める。

拠点センターと連携・協力して安心・安全なシルバー人材センターの実現を目指し

て各種事故防止策を推進、安全就業の徹底と事故の未然防止に努めた結果、事故発生件数は108件（傷害事故38件、損害事故70件）と前年度を8件上回る事となった、屋外の除草作業の事故件数がかなり増えており、さらなる安全就業の徹底が求められる。

適正就業については、昨年度に続き、各センター受託契約書等のチェックを行う等、適正就業ガイドラインに基づいた適正な事業運営の推進に努めた。

③ 連合及び拠点センターの運営基盤の強化に努める。

連合事業の円滑な推進を図るため計画した事業推進検討委員会や各種担当者会議、拠点センター職員の自主活動による事業研究会、福祉・家事援助サービス研究会等は、コロナ禍の中、感染防止対策に万全を期して開催し、集合開催が厳しい場合はICT（情報通信技術）を活用してWEB開催で対応する等、連合及び拠点センターの運営基盤の強化に努めた結果、会員数、受託契約額及び就業延人員、派遣契約額及び就業延人員で前年度を上回ることができた。

④ 公益法人として、公益目的事業の着実な実施に努める。

公益目的事業として認定されているシルバー人材センター事業について、国、県指導の下、拠点センターと連携・協力して着実な実施と法に準拠した運営に努めた。

2 数値目標の達成状況

	(実績)	(目標)	(令和3年度実績)
① 会員数	5,712名	6,968名	5,587名
② 就業率	70.8%	76.6%	71.2%
③ 就業延人員（請負・委任）	411,604人日	433,337人日	390,293人日
④ 就業延人員（シルバー派遣）	12,126人日	13,870人日	8,833人日
⑤ ボランティア参加人数	4,061名	5,616名	3,459名

3 実施計画の取組状況

[公益目的事業1]

就業等の活動機会の開拓及び提供により高齢者の社会参加を促進する事業

(1) 雇用によらない臨時的かつ短期的な就業又はその他の軽易な業務に係る就業機会の提供

① 受託調整

一般家庭及び事業所等のニーズと高齢者の就業ニーズを調整し、これらの仕事を受注・提供できるように各拠点センターと連絡・調整に努めた

(2) 雇用による臨時的かつ短期的な就業又はその他の軽易な業務に係る就業機会の提供

① 有料の職業紹介事業

雇用による臨時的かつ短期的な就業又はその他の軽易な業務に係る就業を希望する高齢者のために有料の職業紹介事業は目標を下回った。

ア 数値目標

・ 求人件数	3 件
・ 有料職業紹介事業収益	80 千円

イ 紹介等実績

・ 求人件数	2 件
・ 有料職業紹介事業収益	17,923 円

② 労働者派遣事業（シルバー派遣事業）

人手不足企業等に対し、各実施事業所と連携して臨時的かつ短期的な就業又はその他の軽易な業務に係る就業の範囲で、派遣による雇用就業を希望する拠点センター会員の要望に応じて、派遣拡大に取り組んだ結果、コロナ禍による影響を受けながらも、前年度を上回る実績を上げることができた。又大手スーパーからの要望に応じて拠点センターとの調整を行い派遣へ結びつくことができた。

ア 受注実績 (令和3年度実績)

・ 受注件数	198 件	112 件
・ 労働者派遣事業収益	56,119,851 円	40,798,625 円
・ 就業実人員	265 人	180 人
・ 就業延人員	12,126 人日	8,833 人日

(3) 臨時的かつ短期的な就業又はその他の軽易な業務に係る就業に必要な知識及び技能を付与するための講習

① 技能講習会等の実施

拠点センター会員で職種転換を希望する者や拠点センターでの就業を希望する高齢者に対し、「高齢者活躍人材確保育成事業」を活用して、就業に必要な基礎知識・技能を付与するための技能講習会や職種転換後の新たな分野での就業又は入会後の就業を円滑にするための就業体験を次のように実施した。

ア 技能講習

・ 介護補助スタッフ講習（2回）	受講終了者数	22 名
・ 保育補助スタッフ講習（1回）	受講終了者数	16 名
・ 学童補助スタッフ講習（2回）	受講終了者数	38 名
・ 店舗補助スタッフ講習（1回）	受講終了者数	12 名
	合計	88 名

・ 講習参加者を募る為、講習ごとのリーフレットを作成・配布し、自治体広報紙への広告を行うなど受講者の確保に努めた。

イ 高齢者対象の就業体験

・ 実施回数	3 回	参加者数	8 名
--------	-----	------	-----

(4) 上記(1)~(3)の事業を推進するための諸活動及びその他の社会参加活動を推進するための諸活動

① 普及啓発

シルバー事業の発展拡充を図るため、拠点センターと連携した啓発活動とともに、「高齢者活躍人材確保育成事業」を活用して、高齢者及び県民、企業、官公庁等に対する啓発活動を次のとおり行った。

ア 多様な知識と経験、資格・能力を持つ高齢者、特に女性高齢者の事業参加を促進するとともに、県民、企業、官公庁等からの支援拡大を図るための啓発活動を推進した。

・ ICT（情報通信技術）等の多様なツール（フェイスブック、ユーチューブ広告）を活用した啓発活動を推進

イ 普及啓発促進月間（10月）を設定し、各拠点センターと連携して啓発に努めた

・ 拠点センターと連携して集中的な啓発活動を推進

・ 「シルバーの日（第3土曜日）」における効果的な啓発活動を推進

・ 女性高齢者の入会促進を図るための経験交流大会の開催

ウ 未設置町村へのセンター設置を促進するため、月間シルバー及び連合会報を県内の自治体へ送付するなど、シルバー事業の情報提供に努めた。

エ 「高齢者活躍人材確保育成事業」を活用して、高齢者及び企業に対する積極的な周知・広報活動の推進を行った

・ 自治体広報誌やマスメディア等を活用した周知・広報を推進

・ センター活用に関心のある企業に対する就業体験（3回）の実施

オ 事業実施状況等を周知する連合だよりの発行（1回）

カ その他、

・ 先進事例等の情報を収集・提供するため、月刊シルバーを県内の全市町村へ配布した。

・ 県内新聞社4社へ計14回のシルバー募集等の掲載（タブロイド紙を含む）を行い、市町村広報紙へ計54回掲載し、県内商工会5社へ計11回の広告を掲載した。

・ 入会用チラシ28,000枚、派遣用チラシ8,000枚を市町村窓口、市町村担当部署、市町村自治会、商工会やハローワーク等関係機関へ配布・周知した。

② 安全・適正就業の推進

「安全は全てに優先する」及び「法令遵守」をスローガンに、拠点センター会員の安全就業の徹底と法令に則った適正な就業を推進するため拠点センターと連携して次のとおり行った。

ア 令和4年度安全・適正就業推進計画を策定し、各センターと安全就業に対す

- る認識や予防対策を共有するするとともに意見交換を行った。
- イ 安全・適正就業パトロール指導員（1名）の配置と巡回指導を実施した。今年度はコロナ禍の影響で中断していた離島へのパトロールを復活することができた。パトロールは本島内SCは月に1回、離島は年1回を基本として巡回する
- 巡回指導実績は17センター 指導回数 166回 現場 258箇所
- ウ 「適正就業ガイドライン」に基づく適正な受注及び就業提供の徹底を安全・適正就業推進委員会及び、事業推進検討委員会で行った
- エ 安全・適正就業強化月間（7月）を設定し、拠点センターと連携して安全意識徹底に取り組んだ
- ・安全・適正就業推進大会を開催し 13SCから38名が参加し、安全就業を推進することを確認し、大学教授の宮本氏の「老けない人は何が違うのか-体のトラブルとメンテナンス-」と題して講演を行った
- カ 拠点センター安全・適正就業担当者会議を開催（2回）し、安全就業・適正就業の推進について共通認識を深めた。特に刈払機の事故が多発傾向にあることから強い注意喚起を共有した。
- キ 新型コロナウイルス感染症に係る感染防止対策の徹底と「新しい生活様式」の周知・推進による安心できる就業環境の確保を確認した
- ク その他、安全・適正就業に関する情報の提供等を各拠点センターへ行った

③ 調査研究

- シルバー事業の発展・拡充に資するため、次のとおり調査研究を行った。
- ア 事業概況（150冊）の作成し、拠点センター及び関係団体へ配布した
- イ 拠点センターの事業実施状況等を取り纏め、事業推進検討委員会で分析、意見交換を行った
- ウ 企業情報の収集と提供（商工リサーチ）を行った
- エ デジタル化推進事業に向けて、17センターの全会員を対象に行い41%の回答を得た。各センターの状況を把握するとともに令和5年度のデジタル化推進に向けた対応ができた。

④ 就業分野の開拓・拡大

- 高齢者の多様な希望に応じた就業機会を確保・提供するため、就業分野の開拓・拡大を図るとともに効率的な事業運営を推進するため、拠点センターと連携して次のとおり行った。
- ア 事業推進検討委員会（6回）を開催し、連合事業の円滑な推進と第四次中期事業計画の目標達成に向け、会員拡大や就業拡大、消費税導入によるインボイス制度等について意見交換や情報提供を行った。又、次年度に向けた包括契

約等について、全シ協から示された今後の対応等に向け意見交換や情報提供を行った。

- イ インボイス制度の導入に向けて課題検討小委員会（2回）を開催し連合としての対応等を検討したが、厚労省や全シ協からの情報等から時期的に判断するのが難しいので中断し、予定していた回数を下回った。
- ウ 拠点センター就業開拓担当者会議を開催（1回）し、県内の事業実績や、今後の就業拡大が期待される分野、県外での好事例等を確認し取り組むこととした
- エ 拠点センター業務担当者会議を開催（WEB:1回）し、適正な事業運営を行うために、センターの目的や法令に準拠した事業運営、受注に当たっての留意事項等を確認した
- オ シルバー派遣事業担当者会議を開催（1回）し、派遣事業に必要な事項を確認した
- カ 拠点センター会員の知識・資格を活用した独自事業や新たな就業分野に関して事業推進検討委員会等で各センターの情報共有を行った
- キ 全シ協、九シ協等の主催する研修会等へ参加し、研鑽に努めるとともにインボイス制度の動向等を確認した
全シ協:8回 九シ協7回 計15回

⑤ 指導・相談

高齢者や地域社会のニーズに的確に対応した事業推進を目指す拠点センターを支援するため、指導・助言、情報提供を行うとともに、拠点センター役職員の資質向上を図るための研修等を行った。

- ア シルバー人材センター事業指導員を配置(1名)し、18SCへ指導を行なった。
今年度はコロナ禍の影響が低下したので中断していた離島への実施も行った。
- イ 拠点センター役職員等を対象とする研修会を開催（3回）した。
 - ・ 新任事務局長研修はセンターの創設から理念、組織運営、事業運営、事務局長の役割等を確認した。
 - ・ 会計担当者研修はインボイス制度の対応等について研修した。
 - ・ 職員研修は県内シルバーと全国比較での課題や、SC職員の事例発表の他、センター職員の働きがい・やる気の喚起を促すため「生きがいや働きがいが高まり、日常が楽しくなる魔法のコトバ」と題してコンサルタント経営者、比嘉氏の講演を行った。参加者29名
- ウ 拠点センター訪問指導を実施（全シ協個別指導含む）した
指導センター 7センター
- エ 拠点センター職員の自主的研究活動を支援した
 - ・ 福祉・家事援助サービス研究会（3回）

- ・会計者担当国会議（2回）
- オ 高齢者及び拠点センター職員等への相談対応を実施した
 - ・拠点センターの要望により派遣事業、インボイス制度の説明を行った
 - ・グッジョブセンターへ出張相談窓口を設置し、月2回の計24回行った
相談者数 39名
- カ シルバー事業説明・相談会（会員・地域住民等対象）の開催を実施した
 - ・離島の1SCへ出向き、事業説明と相談対応を行った
 - ・高齢者活躍人材確保育成事業の中で、県内2地域でのぼりを立て入会相談
窓口を設置した 窓口来所件数 4件
- キ 連合で講師を登録し、拠点センターが必要とする会員を対象とする講習・研
修会へ講師を派遣する「講師登録・派遣事業」を今年度から実施した。
登録講師団体・人数 11名 実施件数 7回派遣
- ク デジタル利用推進事業としてスマホ講習会を計4日実施した。
参加者 計35名

⑥ 社会参加活動の推進

拠点センターと連携して、ボランティアによる社会参加、地域貢献を希望する高齢者及び拠点センター会員に対し、ボランティア活動への参加を呼びかけ、各地域における社会参加活動の推進に取り組んだ。

- ・ボランティア参加延人員 4,061人(対前年度比117%増) 昨年度3,459人

4 運営体制

連合を適正かつ効率的に運営するため、次のとおり行った。

① 運営体制の充実

連合事業の円滑な推進を図るため、ICT（情報通信技術）を活用して効率的な事務執行に努めた

② 会議の開催

ア 定時総会（6月22日 参加18センター）を開催し、事業報告、収支決算、役員を選任等について承認決定した

イ 理事会（6回）及び3役会議（3回）を開催し、適正な運営に努めた

③ その他の取組み

- ・全国シルバー人材センター事業協会定時総会（6月23日 東京都 書面表決）
- ・九州ブロックシルバー人材センター連絡協議会定期総会（7月14日 宮崎市）
- ・労働局、沖縄県、県内商工会議所との意見交換会を1回行った